

第70回沖縄県高等学校野球春季大会

令和5年3月19日（日）～ 4月2日（日）

主催：沖縄県高等学校野球連盟

共催：琉球新報社

後援：沖縄県教育委員会

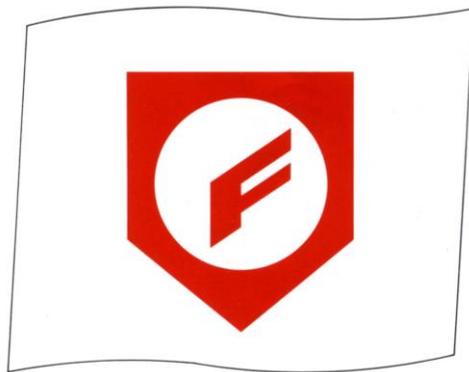
朝日新聞社

会場：沖縄セルラースタジアム那覇

アトムホームスタジアム宜野湾

糸満市西崎球場

大会要項



2023.2.9

一般財団法人

沖縄県高等学校野球連盟

第 70 回沖縄県高等学校野球春季大会

大 会 要 項

主 催 沖縄県高等学校野球連盟
共 催 琉 球 新 報 社
後 援 沖縄県教育委員会
朝 日 新 聞 社

1. 期 日 令和 5 年 3 月 19 日 (日) ～ 4 月 2 日 (日) ※雨天順延
 2. 会 場 沖縄セルラースタジアム那覇 那覇市奥武山 5 2 番地
アトムホームスタジアム宜野湾 宜野湾市真志喜 4 - 2 - 1
糸満市西崎球場 糸満市西崎町 3-1
 3. 大会申し込み 本大会に参加を希望する加盟校は、沖縄県高野連 HP (<http://www.kouyaren-okinawa.jp/>) に掲載されている大会参加エントリー用紙に必要事項を記入し、沖縄県高野連事務局まで FAX にて申し込むこと。※不参加の学校も含め、加盟校は全校 FAX して下さい。
 4. 申し込締切り 令和 5 年 2 月 16 日 (木) 16 時までにエントリー用紙を FAX にて下記まで送信する。
沖縄県高野連事務局 FAX 098-890-3158
 5. 抽 選 会 令和 5 年 2 月 20 日(月) 午後 2 時
会場：北中城村中央公民館 大ホール 北中城村字仲順 435 番地
①参加者は各校 2 人以内 (主将、責任教師、監督のうち 2 名以内)、および大会役員
②抽選にあたってはシード制を採用する。(日本ウェルネス・興南・糸満・沖縄工業)
 6. 選手資格証明書 沖縄県高野連 HP (<http://www.kouyaren-okinawa.jp/>) に掲載されている選手資格証明書を、
13 部 (押印はコピーした後に行うこと) 作成し、令和 5 年 3 月 15 日(水)正午 (必着) までに下記宛に郵送にて提出して下さい。
選手資格証明書提出後は、選手変更はできません。
◎印なども忘れずに記入して下さい。
提出先 〒901-2224 宜野湾市真志喜 2 - 2 5 - 1 県立宜野湾高等学校内
沖縄県高等学校野球連盟 理事長 中村 健 宛
- ※郵送とあわせて (同期日までに)、データ (Excel ファイル) を、高野連事務局の電子メールアドレスまで電子メールにて添付送信して下さい。
7. 大会諸経費 ①入場整理券 (大人 600 円、中高生 200 円) をもって充当する。
②中高生の団体割引については、引率者を含む 20 名以上は 100 円とする。
③剰余金が生じたときは、本連盟運営費に繰り入れ、不足の時は同運営費から充当する。
※P.5 に入場料等に関する事項 (詳細) を示します。
 8. 大会組織 及び運営 ①参加校は日本高等学校野球連盟に加盟している学校代表チームによって行う。
②主催者で運営委員会を組織し、大会運営に万全を期す。
③大会役員は運営委員会で適任者を選び委嘱する。審判委員は県高野連審判部が担当する。
 9. 申込み後の選手登録変更 今大会は、選手資格証明書提出後の選手変更は受け付けません。
※コロナ感染に係る選手変更については別途定める。

10. 表彰及び派遣 ①優勝校へは賞状、優勝旗、優勝楯を授与する。
②準優勝校へは賞状、準優勝楯を授与する。
③本大会の優勝校は、熊本県で開催される第152回九州地区高等学校野球大会【4月22日(土)～4月27日(木)】に出場させる。
- ※注(ア)本大会の準優勝校は4月15日(土)・16日(日)に行われる第34回八重山交流試合に派遣させる。
(イ)本大会の3位校は4月22日(土)・23日(日)に行われる第19回宮古交流試合に派遣させる。
(ウ)第95回記念選抜高校野球大会へ出場する沖縄尚学高校および、本大会の優勝校・準優勝校・3位校は、5月27日(土)・28日(日)に行われる第52回招待試合で中京大学附属中京高等学校(愛知県)と対戦させる。
11. 3位・4位校 3位決定戦(九州大会派遣補欠校順位戦)は実施せず、準決勝戦において優勝校に敗戦したチームを3位校とし、準優勝校に敗戦したチームを4位校とする。
優勝校が新型コロナウイルスの影響により九州大会出場を辞退した場合の補欠校の順位は、準優勝校、3位校、4位校の順番とする。
なお、第105回全国高等学校野球選手権記念沖縄大会におけるシード校は、第95回記念選抜高等学校野球大会に出場する沖縄尚学高校と本大会の優勝校、準優勝校、3位校の計4校とする。シード順は、チャレンジマッチ(令和5年4月9日(日)予定)での勝利校が1位、敗戦校は2位、本大会準優勝校を3位、3位校を4位とする。
12. 開 会 式 **実施しません**
13. 閉 会 式 決勝戦終了後、優勝、準優勝の両校で行なう。

第 70 回沖繩県高等学校野球春季大会

細則

1. 試合規則は、2023年公認野球規則と大会特別規定により運営する。
2. 選手資格は、令和5年4月2日現在で満18才（平成17年=2005年4月2日以降の出生者）以下の者。
3. 大会期間中の不測の負傷または疾病に対して、主催者は応急の手当を施す他は責任を負わない。
4. 第1試合の出場チームは、試合開始60分前には所定の球場に到着し、大会本部よりオーダー用紙を受け取り記入後、直ちに提出すること。その後放送により責任教師・主将は本部役員・審判委員の指示に従って攻守を決める。（オーダー用紙交換は試合開始50分前に行なう。）
5. 第2試合目以降の出場チームは、球場到着後、大会本部でオーダー用紙を受け取り、4回終了までに大会本部に提出すること。オーダー用紙交換は5回終了後に行なう（放送を行なう）。責任教師と主将は本部役員・審判委員の指示に従って攻守を決める。選手はいつでも試合ができるよう準備しておくこと。
6. ベンチサイドは、抽選番号の若いチームを一塁側とする。
ベンチには登録の責任教師1名、副責任教師1名、監督1名、選手20名、記録員1名の計24名以内とする。
連合チームのベンチ内の人数等については、大会本部に確認すること。
7. 責任教師か副責任教師がノックした後は、平服に着替えベンチに入ること(高野連スタッフシャツも可)。
8. 試合前のシートノックは7分間。ノック時の補助選手は5名までとし、必ずヘルメットを着用すること。又、登録メンバー以外は、ノックを受けたり守備に入ってはいけない。
9. シートノック時のノッカーは、選手と同じユニフォームを着用し、黒または白のスパイクおよびシューズとする。
補助選手も試合用ユニフォームを着用すること。
10. 記録員は男女にかかわらず、自校の制服を着用すること。複数の記録員のいる場合は毎試合代わってもよい。但し、シートノックの補助をするときはユニフォームを着用すること。
11. 打者・走者ともに危険防止のため、必ずSGマーク（経産省認可）両耳付きヘルメットを着用する。
12. 捕手は防護用ヘルメット・マスク（SGマーク付）とスロートガード（のど部分の防護具）、カップを必ず使用すること。また、練習時を含め、捕手は座って投球を受けるときは必ず捕手用具一式を着用すること。
13. 試合中、攻守交代は全力疾走に徹すること。
14. 攻撃側の選手は、次打者・ランナーコーチ以外はベンチから出ないこと。次打者席には、必ず次打者が入り、投手が投球姿勢に入ったら素振りを止める。危険防止のため、グラウンド内にいる全ての選手（特に次打者、ブルペンの選手）は投手が投手板に位置したならばプレイに注目すること。
15. ベンチ内のメガホンは1個のみとする（監督のみ使用）。
16. グラウンドに入ってアップを開始するときは、試合用のユニフォームを着用すること。人員は25名以内とする。
17. 危険防止のため、球場内におけるフリーバッティング、ハーフバッティングは禁止する。また、球場内においてウォーミングアップ及びランニングで外野の芝生を使用する際は、アップシューズを使用すること。
18. 試合中、ベンチ前でのキャッチボールは2組（4人）まで並列とし、ゴロの捕球練習は認めない。
19. 野球用具の使用については、日本高等学校野球連盟の用具使用制限に適合したものを使用すること。
《応援団について》
 1. 大会期間中の応援団の行動は、責任教師がその責任を負う。
 2. 手指消毒の徹底やソーシャルディスタンスの確保など感染拡大防止に努めること。
 3. ブラスバンドおよび音源を利用したの応援を認める。太鼓については、洋太鼓・和太鼓いずれかを1個とする。
 4. 音源を利用する場合、音声出力機器（スピーカー等）は、応援団の最後列に設置し、音量等については大会本部の指示に従うこと。なお、電源は各チームで準備し、会場の電源は使用しないこと。
 5. 応援団は、試合中は場内の整理と感染拡大防止、試合終了後はスタンドの清掃と消毒に協力する。
 6. 個人名や校名を記入したノボリ等、テープ・紙ふぶき等、タオル等を振り回しての応援は禁止。
 7. 応援団の校章旗・横断幕等は指定場所に掲げること。

大会特別規定

1. シートノックは試合前、大会本部の指示に従い行うこと。制限時間は7分間とする。但し、時間の都合で、短縮または行わないこともある。シートノックの補助員5名以内と補助ノッカー(登録外)1名を認める。
2. 本大会はタイブレーク制度を採用する。タイブレークは10回、無死1塁・2塁からとし、打順は9回終了時の打順を引き継ぐものとする。(決勝戦もタイブレークを適用する)
3. 1週間500球以内の投球とする。
4. 本大会では、得点差によるコールドゲームを次のとおり定める。
 - ①5回以降10点以上、7回以降7点以上の得点差が生じた場合。
 - ②決勝戦では、コールドゲームを適用しない。
5. 降雨中断後、30分毎に判断し、グラウンド整備を行ない90分をめどに試合続行が可能な場合は再開し、不可能と判断した場合は、審判委員が当該試合の当日の試合の打ち切りを命じ、継続試合とする。継続試合の日程や球場については、主催者が決定する。
6. 最終試合の開始時刻は日没2時間30分以前とするが、当日の天候その他を考慮して主催者が決定する。また、日没15分前からは新しいイニングに入らない。日没、その他の事情で試合の続行が不可能になった場合は、審判委員が当該試合の当日の試合の打ち切りを命じ、継続試合とする。継続試合の日程や球場については、主催者が決定する。

※継続試合については決勝戦でも適応する。またその詳細は別途定める。
7. 試合中、攻撃側選手に不慮の事故などが起き、一時走者を代えないと試合の中断が長引くと審判委員が判断した時は、相手チームに事情を説明し臨時の代走者を許可することができる。この代走者は試合に出場している選手に限られ、チームに指名権はない。
 - ・臨時代走はその代走者がアウトになるか、得点するか、またはイニングが終了するまで継続する。ただし、塁上にいる臨時代走者が次打者となるケースにおいては、その臨時代走者に代えて打撃を完了した直後の者を新たな臨時代走者とする。
 - ①打者が死球などで負傷した場合
投手を除いた選手のうち、打撃を完了した直後の者とする。
 - ②塁上の走者が負傷した場合
投手を除いた選手のうち、その時の打者を除く打撃を完了した直後の者とする。(参考) 臨時代走者の記録上の取り扱いは、盗塁、得点、残塁などすべてもとの走者の記録として扱われる。
8. 審判委員の判定には、絶対に抗議することはできない。但し、ルール適用の過ちがおきた場合は申し出ることができる。疑義を申し出る場合は主将、伝令、または当該選手に限る。
9. 審判委員へのアペールは、必ず主将及びそのプレーの当事者が行なうこと。
10. 試合中トラブルが生じ、試合続行が不可能な場合は、トラブルを引き起こしたチームを敗者とし、没収試合とする。
11. 打者がバッターボックスに入る時や投手が審判委員からボールを受け取る際は、帽子を取って礼をする必要はない。
12. 試合中は、ベンチ入りできない者(登録選手以外の部員・OB・保護者等)をベンチや選手控え室に出入りさせたり、ベンチ周辺に近づけない。
13. 携帯電話はベンチに持ち込まない。
14. 走者やベースコーチ等が捕手のサインを見て、声やジェスチャーで打者にコースや球種を教える等の行為を禁止する。
15. サイズの大きい走者用手袋の使用とグラブの手首へのリストバンド装着は認めない。

第 70 回沖繩県高等学校野球春季大会

開催細則

1. 開会式 実施しません

始 球 式 (3月19日(日)アトムホームスタジアム宜野湾にて9時予定)

2. 閉会式

- 1 決勝戦終了後、優勝チーム、準優勝チーム、大会役員、審判委員、来賓で行う。
- 2 決勝戦が終わり次第、両チームの選手は投手板を中心にバックネットに向かって一列横隊に整列する。
- 3 大会役員、審判委員、来賓および両校の校長、責任教師(正副)、監督はバックネット前に整列する。

閉会式次第	司 会	新 垣 健 一	(高野連総務部長)
1 開 会			
2 成 績 発 表			
3 表 彰	大 会 長	川 畑 三 矢	(高野連会長)
4 大 会 長 挨拶	大 会 長	川 畑 三 矢	(高野連会長)
5 共 催 団 体 あいさつ	大 会 副 会 長	普 久 原 均	(琉球新報社代表取締役社長)
6 国旗並びに大会旗降納			
7 閉 会 宣 言	大 会 副 会 長	新 城 英 人	(高野連副会長)

※閉会式後、優勝、準優勝チームはダイヤモンドを一周する

※閉会式の内容は、新型コロナウイルス感染状況により変更もあり得ます。

入場料等に関する詳細

(1) 入場料は、大人600円、中高生200円、小学生以下は無料。

※試合のある学校の学校職員は、「職員証」を提示していただければ、入場料は徴収いたしません。

(「職員証」は、試合がある当該校の職員であることが証明できれば、その様式等は問いません)

※一般生徒(試合がある当該校の生徒)が20人以上の場合、各学校で作成した「団体券」を提示すれば、入場料を一人100円とする。

(2) 小・中学生の野球チームは、希望すれば団体で観戦できる。ただし、観戦場所は大会役員の指示に従うこととし、選手10人に対して1人の大人(責任者)がチームの掌握にあたり、感染対策や熱中症、ケガや事故等の予防に責任をもつこと。責任者を含め入場料は徴収しない。

(3) 第一試合が終了したら、原則として払い戻しは行わない。

※第一試合が「継続試合」になった場合は、払い戻し等の対応を行う。

第 70 回沖繩県高等学校野球春季大会 競技役員

顧問	知念 繁夫 新屋 太郎 宜野座 嗣郎 國吉 眞介 宮里 景眞 狩俣 幸夫 砂川 恵重 赤嶺 研雄 我如古 清 玉城 崇 志良堂 芳男 前新 健 神谷 孝 森田 邦弘 前新 出 上原 昇 平良 章次 岩崎 勝久 半嶺 満 (県教育委員会教育長) 渡辺 丘 (朝日新聞社那覇総局長) 比嘉 洋 (毎日新聞那覇支局長)
参加校校長	城間 敏生 (県教育庁保健体育課長)
大会 会 長	川 畑 三 矢 (県高野連会長)
大会 副 会 長	新 城 英 人 (県高野連副会長) 屋 良 淳 (県高野連副会長) 外 間 昌 繁 (県高野連副会長) 普久原 均 (琉球新報社代表取締役社長) 渡 辺 丘 (朝日新聞那覇総局長)
運 営 委 員 長	中 村 健 (県高野連理事長)
運 営 委 員 長 補	前 川 等 (県高野連副理事長)
運 営 副 委 員 長	町 原 尚 忠 (県高野連常任理事) 渡久地 政 国 (県高野連常任理事) 宮 里 淳 (県高野連常任理事) 上 原 健 吾 (県高野連常任理事) 名渡山 直 子 (県高野連常任理事)
運 営 委 員	
総 務 部 部 長	新垣 健一
総 務 部 副 部 長	瀬底 智樹、 國吉 大志、 岸本 拓馬
技 術 部 部 長	川上 琢也
技 術 部 副 部 長	田里 友哉、 米須 清祐、 川平 優次
審 判 部 部 長	多嘉山 太
審 判 部 副 部 長	西銘 健一、 島袋 俊哉、 上原 拓、
記 録 情 報 部 部 長	神里 大 一
記 録 情 報 部 副 部 長	佐久原 大志、 仲里 裕太、 豊原 啓人

競技役員

	城間恒寿	中村敦			森本裕也	真玉橋長郎	照屋実理
	中本昌弥	安富大志			濱元良人	松元輝	町田宗毅
	上地愛美	高良耕平			上原正昭	山城和也	
	比嘉智二	當銘樹	伊良波泰		下地克弥	宮城隼人	
	屋良健	新垣祐樹	知念邦睦		玉城史仁		
	津山嘉都真	玉城幸哉			大城英健	比嘉公也	伊志嶺大吾
	宮里義浩	宮城岳幸			安座間竜作	喜瀬民男	崎浜秀弥
	森澤征一郎	上原達也	比嘉吉一		吉元嘉邦	大川基樹	糸数辰信
	東佳奈子	玉城輝明	池宮城朗		伊佐優歩	親川聖	
	石澤里奈	津留直樹			金武孝代		
	前濱範一	東亮	山城明男		洲鎌弘樹	大城康成	仲川和充
	長嶺由騎	安富祖柚紀			仲里武史	照屋圭二郎	石塚年勝
	仲宗根寛史	仲與根清十郎			嘉数節	知念盛人	岸本亘史
	具志堅興律	慶田城剛	狩俣和也		天願恒	照屋拓己	新里聡江
	大浦陸	島袋春樹	兼城翔太		宮城薫	親泊達也	崎原秀弥
	末吉昇一	喜舎場正太	伊禮直浩		翁長淳	瀬名波幹智	
	西野僚真	宜志富薫	與那城吾朗		森根太	古城大地	
	宮里健二	知名淳			神里正太	上原忠	大城一基
	知念正仁	田原伸繁	玉元大輔		川満翔太	呉屋大輔	
	浦添広志	奥田誠吾	城間克也		眞玉橋元博	山城元子	新垣隆夫
	藏本哲雄				当山祐作	大城浩二	山内一尚
	與儀正	天願正宗			宮里友也	平良隆訓	糸数昌之
	川満亨	新里拓			大城盛隆	大城貴史	
	比嘉秀策	嶺井政彦	當銘葵		平良栄二	栗國優貴子	屋嘉比政司
	伊禮隼	大蔵宗元	上原健史		島袋義之	新川将太	小波津尚志
	福中直人	宮城耕治	山城学		伊集幹郎	赤堂秀馬	
	新垣隆	比嘉繁遵			町田尚弥	兼島兼哲	伊良波長之
	仲里健	金城聡			上原八重子	新里和久	内間忍
	大嶺真	城間直美	阿波連仁		西銘大悟	砂川玄隆	大浜英康
	仲間広美	野原潤一			小林大隼	辻建	崎山留美
	安里利光	我喜屋優	砂川太		又吉晋也		
	池間忠彦	島袋洋奨			大城康弘	金城洋樹	
	藤井智	安慶名祐架	津留侑介		前城大悟	神山剛史	瀬名波敦
	金城幸伸	砂川歩	徳山篤史		浅利賢宏	五十嵐康朗	今崎颯
	山鹿勝廣	新田伸			神田大輝	神谷喜宗	大湾達矢
	我謝隆						
	富川盛章	安里大作	岸本敬	外間一先	仲本賢一郎	仲松志朗	福原修
	金城朋奈	中山慎	多和田真	伊計千夏	森みさき		

第 70 回沖繩県高等学校野球春季大会

審判委員

審判委員長 多嘉山 太 (県高野連審判部部長)
 審判副委員長 西銘 健一 (県高野連審判部副部長)
 島袋 俊哉 (県高野連審判部副部長)
 上原 拓 (県高野連審判部副部長)
 審判幹事 平良 章次 島袋 恭一 国仲 吉川 町田 幸男
 譜久村 淳一 安富 薫 比嘉 安孝 玉代勢 秀人
 座喜味 治 国仲 直彦 玉城 健

審判委員 沖繩県高等学校野球連盟 審判部

多嘉山 太	西 銘 健 一	島 袋 俊 哉	上 原 拓
平 良 章 次	島 袋 恭 一	国 仲 吉 川	町 田 幸 男
譜久村 淳 一	安 富 薫	比 嘉 安 孝	玉代勢 秀 人
座喜味 治	国 仲 直 彦	玉 城 健	喜 納 清 一
西 村 洋	真 壁 朝 善	喜友名 功	宮 里 一
我喜屋 宗 彦	澤 岷 安 邦	兼 次 博	上 原 浩
嘉 数 正 重	島 袋 英 治	玉 城 誠	大 城 幸 光
仲 本 盛 和	金 城 明	下 里 大 弥	大 浜 拓 郎
平 田 英 樹	平 良 朋 広	山 田 健 登	西 野 僚 真
野 原 大 輝	西 江 大 成	具 志 堅 興 律	嘉 陽 宗 雄
天 願 恒	平 良 博 志	野 原 潤 一	嶺 井 政 彦
中 村 健	外 間 一 先	田 原 伸 繁	津 留 直 樹
親 川 聖	平 良 隆 訓	眞玉橋 元 博	嘉 数 節
前 川 等	伊良波 泰	吉 元 嘉 邦	新 田 伸
知 名 淳	島 袋 春 樹	宮 里 淳	山 城 明 男
大 川 基 樹	照 屋 圭 二 郎	上 間 理 博	金 城 達 也
喜 瀬 民 男	照 屋 拓 己	外 間 勝	奥 田 誠 吾
浦 添 広 志	川 満 亨	町 田 宗 毅	石 塚 年 勝
知 念 正 仁	大 蔵 宗 元	金 城 聡	眞玉橋 長 郎
安座間 竜 作	大 城 康 成	東 亮	島 袋 善 之
田 里 友 哉	大 城 盛 隆	玉 城 幸 哉	長 島 誠
川 上 琢 也	山 城 和 也	濱 元 良 人	徳 山 篤 史
國 吉 大 志	大 城 康 弘	大 城 浩 二	平 良 栄 二
宮 城 岳 幸	津 山 嘉 都 真	渡 久 地 政 国	安 富 大 志
神 里 大 一	宮 里 健 二	山 里 貞 俊	上 原 健 吾
洲 鎌 弘 樹	高 良 耕 平	豊 原 啓 人	仲 里 真 澄
大 嶺 祐 介	伊 藝 修 策	仲 本 賢 一 郎	安 里 大 作
與 那 城 吾 朗	當 銘 樹	金 城 裕 介	佐 久 原 大 志
大 嶺 真 次	岸 本 拓 馬	大 城 一 基	安 富 勇 人
川 平 優 次	赤 堂 秀 馬	松 元 輝	宮 里 友 也